

横須賀港 港湾計画（改訂）

1. 沿革と現状

須賀港は、昭和 26 年（1951 年）に重要港湾に指定され、昭和 28 年（1953 年）4 月 1 日から横須賀市が港湾管理者となった。

最近の動向としては、平成 16 年 4 月に横須賀一大分を結ぶ高速フェリー航路が就航し、順調に利用者数を伸ばすなど、東京湾口部の立地特性を活かしたユニットロード拠点の形成が進んでいる。

また、自然環境に恵まれた横須賀港は、首都圏における海洋性レクリエーション拠点としての要請も高く、横須賀市は、国際性豊かな感性あふれる文化都市を目指している。

こうした背景のもと、横須賀港は、物流、交流、レクリエーション等の諸要請に対応するため、土地造成を伴う、総合的な港湾空間整備を計画実施してきた。しかし、近年、土地需要の低下、産業の合理化等に伴う遊休地の発生、環境保全の要請の高まりなど、社会情勢が大きく変化していることから、これらに対応した港湾空間のあり方が求められている。

2. 港湾計画の主な方針

横須賀港は、このような社会情勢の変化に対応し、地域の多様な要請に応えつつ、地域資源である海の魅力を一層引き出して、港湾と地域の活力を維持してゆくため、大規模土地造成計画を見直すとともに、自然環境の保全・再生を進めるなど、市民が海に親しめるみなとづくりを目指すこととする。

このため横須賀港は、東京湾の各港湾との適切な機能分担のもと、地域の持つ個性を最大限に活かして、「地域の発展と安定を支える港湾としての役割」及び「首都圏港湾としての広域的役割」を果たすため、平成 20 年代後半を目標年次として、以下のような方針により、港湾計画を改訂するものである。

1) 環境施策の充実と推進

東京湾の再生への貢献と横須賀の資源である海の魅力を一層向上させるため、土地造成計画を見直すとともに、港内に残された自然の保全に努め、港湾の利用と調和を図りつつ、緑地・海浜整備による親水空間の創出を図る。

2) 暮らしの豊かさと安心の向上

市民の暮らしの豊かさの向上と、交流人口の増加による都市活力の拡大を目指し、横須賀港の魅力である海を活用し、クルーズ船の誘致、港内・湾内遊覧船の就航、水際線の開放などを進め、市民はもとより、首都圏住民が楽しめる個性ある海辺空間の創出を目指す。

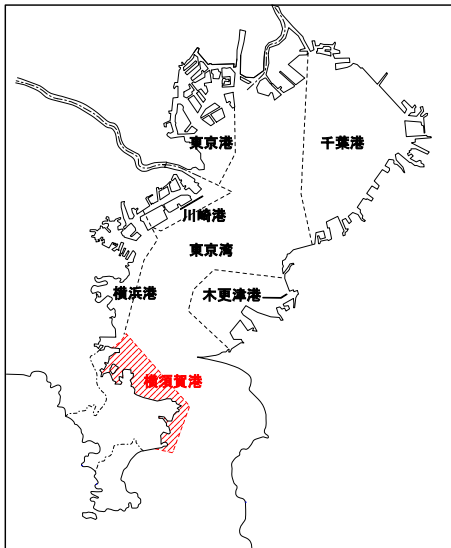
また、湾内における放置プレジャーボートの収容を進めるとともに、大規模地震災害に対応するため、耐震強化岸壁を適切に配置する。

3) 物流機能の強化と再編

港湾間における適切な機能分担と連携のもと、安価で確実な輸送を提供するため、既存施設の再編・集約、老朽化施設の更新などを進め、地域の貨物取扱いの効率化を図る。

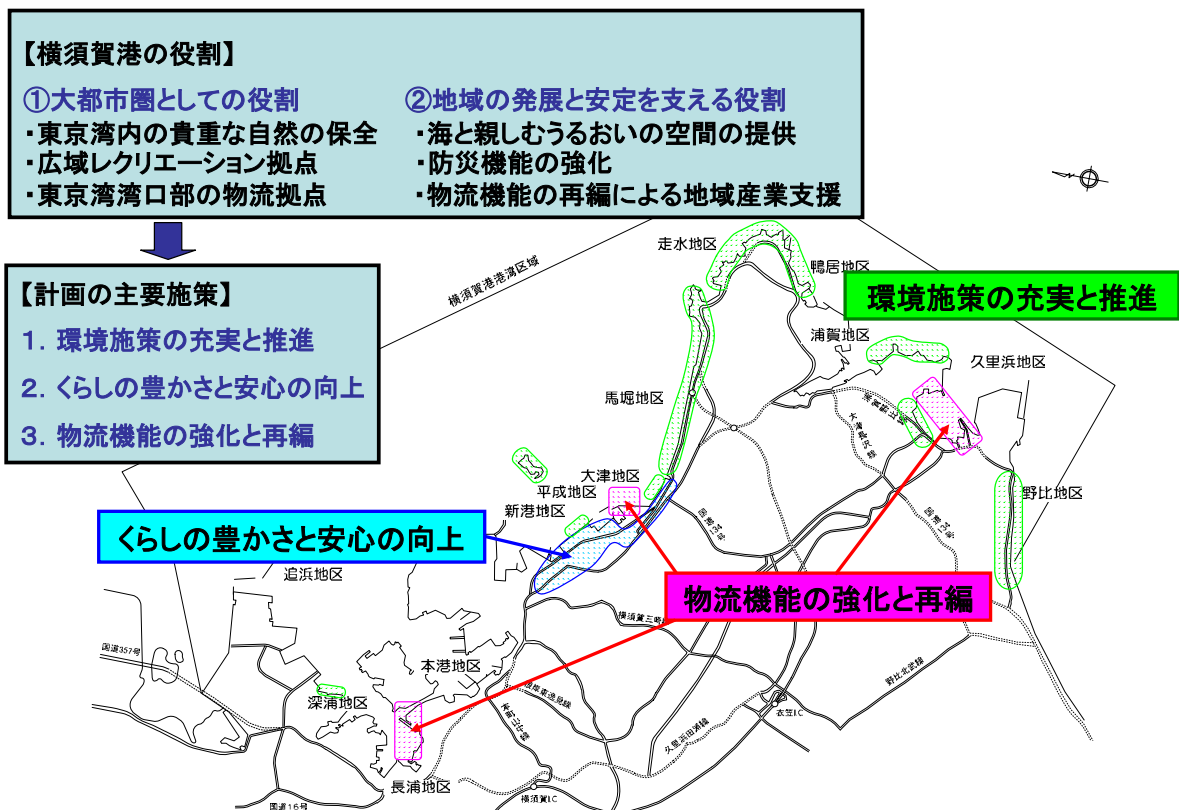
また、東京湾口部に位置する地理的特徴を活かした内貿ユニットロード機能の強化を目指し、大分航路の拡充を進めつつ、既存施設の活用など、柔軟な運用も視野に入れた新規航路の誘致を強力に推進し、将来の内貿ユニットロード拠点の充実、拡大を図る。

3. 横須賀港の位置及び現況



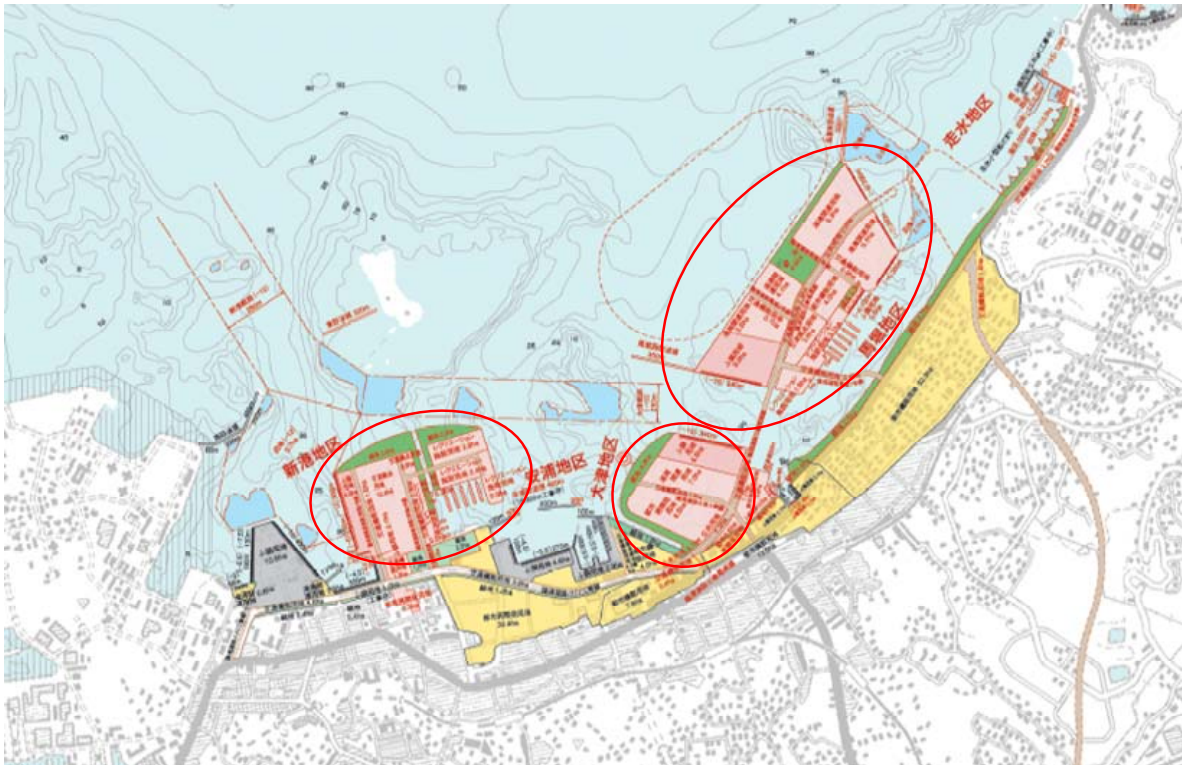
4. 主な計画内容

☆横須賀港港湾計画☆



☆埋立計画の見直し☆

新港地区～走水地区



☆環境施策の充実と推進☆

【要請・背景】
 ◎東京湾に残された自然環境の保全
 ◎自然・海等を活かした潤いと安らぎの空間の提供

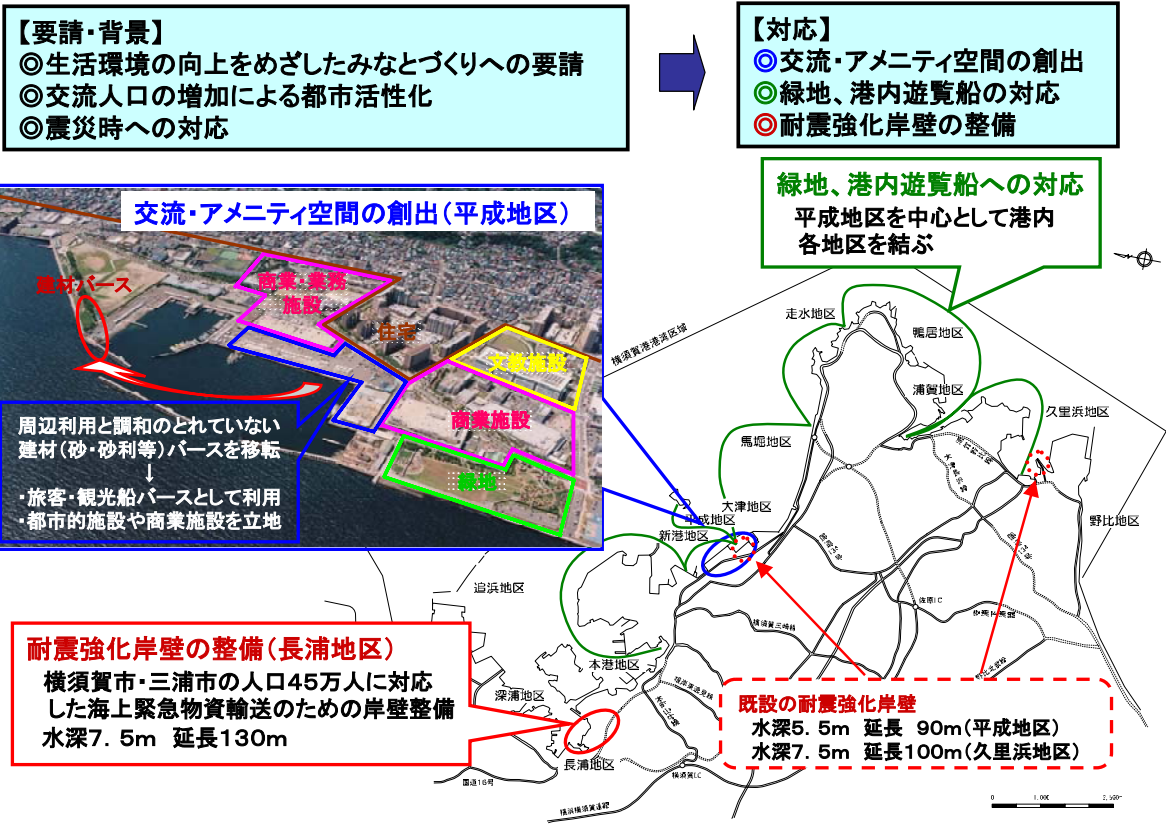


【対応】
 ◎自然環境と共生するゾーンの設定
 ◎緑地・海浜整備による親水・アメニティ空間の創出



緑地計画位置図

☆くらしの豊かさと安心の向上☆



☆物流機能の強化と再編☆

